

ロシアにおける植物資源の探索収集の事前調査

長峰 司¹⁾・久田 方彦²⁾

1) 農業生物資源研究所・ジーンバンク・上席研究官

2) 同・遺伝資源管理課・専門職

Preliminary Survey of Exploration/Collection of Plant Genetic Resources in Russia

Tsukasa NAGAMINE¹⁾ and Masahiko HISADA²⁾

1) *Research Leader, Genebank, National Institute of Agrobiological Sciences, Tsukuba, Ibaraki 305-8602, Japan*

2) *Genebank Management Section, Genebank, National Institute of Agrobiological Sciences, Tsukuba, Ibaraki 305-8602, Japan*

Summary

Russia is the largest country in the world and has various kinds of plant species. Since 1992 NIAS Genebank has a good communication between the N. I. Vavilov Institute for Plant Industry (VIR) and we have conducted several times of collaborative exploration/collection missions for wild relatives of wheat, fruit trees and forage crop species. In order to facilitate these collaborative activities on plant genetic resources regarding exploration/collection and evaluation, NIAS and VIR signed a Memorandum of Agreement (MOA) on 22th of April 2003 (NIAS) and 17th of May 2003 (VIR). According to the signed MOA, NIAS dispatched the preliminary survey mission for Beta exploration/collection. They discussed a possibility of entering Republic of Azerbaijan and Dagestan region of Russia and detailed plan for the implementation each other.

KEY WORDS: Russia, Azerbaijan, Dagestan, exploration, collection, plant genetic resources, Beta, MOA

1. 事前調査派遣の経緯

植物遺伝資源は、作物の新品種育成のための育種母本として、あるいは遺伝学などの研究材料として重要であり、その探索収集は新しい遺伝子を発見する、あるいは利用する第一段階と位置付けられる。これまでジーンバンク事業では世界各国に探索隊を派遣して、さまざまな植物遺伝資源の収集を実施してきた。ジーンバンク事業によるロシアとの間の共同探索

は、N.I. バビロフ植物産業研究所（以下バビロフ研究所）を交渉先にして、1991年にサハリンで寒地型牧草を探索収集したことを契機として、ソビエト連邦解体後に独立した周辺諸国を含めてこれまで、1994年にチューリップ・ユリ属でカザフスタン・キルギスタン共和国、1997年にネギ属探索でカザフスタン共和国、1998年に落葉果樹でアルメニア・グルジア共和国に探索隊を派遣した。また、国際植物遺伝資源研究所（IPGRI）の特別拠出金で、1995年に果樹探索でロシア・トルクメニスタン共和国に派遣した実績がある。

その後、共同探索の実施が一時途絶えていたが、2002年10月にバビロフ研究所のセルゲイ・アレキサニアン海外関係部長と白田和人、長峰司両上席研究官がFAOの会議で同席した。当方からロシアにおける植物遺伝資源の共同探索収集計画を実施したい旨要望を行ったところ、バビロフ研究所側が計画に同意した。2003年1月から4月にかけて、農業生物資源研究所とバビロフ研究所の間で、探索収集、特性評価を含む共同研究の実施に関する契約書の策定作業を行った。約半年間の議論で、共同探索収集、特性評価を含む共同研究に関する内容がまとまり、岩淵雅樹農業生物資源研究所（以下生物研）理事長、新保博企画調整部長（ジーンバンク長代理）が4月22日に、バビロフ研究所のビクトル・ドラガブセフ所長、S. アレキサニアン海外関係部長が5月17日に契約書に署名する運びとなった。

共同研究契約書（MOA）の内容は、日本側が生物研、野菜茶業研究所、果樹研究所、作物研究所、その他必要な研究所、ロシア側がバビロフ研究所との間で、ロシアにおける生息域内保全及び農家保存される作物及び近縁野生種などの植物遺伝資源について農業生物多様性を明らかにし、共同で探索収集を実施し、特性評価や育種素材化を図ろうとするものである。共同研究期間は2003年の7月から2008年6月までの5カ年である。これにより、バビロフ研究所との間で5年間にわたり植物遺伝資源の探索収集・特性評価などが共同で実施できる態勢が整えられたことになった。

平成15年度のジーンバンク事業による海外探索に北海道農業研究センターからテンサイの野生種である *Beta* 属植物をカスピ海周辺で実施したいとの計画が提出された。植物遺伝資源部会、評価委員会に提案したところ、その計画の実施が妥当とされた。

そこで、この締結されたMOAに従って、計画内容について、バビロフ研究所に赴き事前調査をすることとなった。

2. 事前調査の内容

調査期間は2003年7月6日（日）から13日（日）までの8日間であった。

生物研ジーンバンク長峰司上席研究官と遺伝資源管理課久田方彦専門職が派遣された。長峰が探索収集の日時、対象地域、詳細計画の検討を担当し、久田専門職は共同探索収集の経費算出、現地における物価見積り等を主に担当した。

アレキサニアン海外関係部長と交渉して以下の事項などを議論して確認した。

- 1) 探索収集対象植物は *Beta* 属の野生種とする。
- 2) *Beta* 属野生植物の探索対象地域は、バビロフ研におけるこれまでの探索収集の記録、*Beta* 属植物の分布状況などを考慮してロシア南部のダゲスタン地域とアゼルバイジャン共和国とする。
- 3) 探索の実施時期は2003年8月3日（日）から17日（日）までの15日間を要望し

たが、アゼルバイジャンとダゲスタンの2地域を探索するため、19日（火）まで延長することとし、全体で17日間とする。

4) 探索隊の構成員は日本人2名、バビロフ研から2名とする。さらにアゼルバイジャン共和国、ダゲスタン地域で現地研究者を追加する。

5) 探索の経路は以下のものである。8月4日（月）夜にセントペテルスブルグから列車でモスクワ入りする。5日（火）にモスクワの国内空港からアゼルバイジャンの首都バクーに空路で入国する。6日（水）から12日（火）までアゼルバイジャンを探索し、13日（水）から17日（日）までダゲスタン地域を探索する。探索が終了した18日（月）にマハチカラから空路モスクワ入りする。日本人隊は19日（火）にモスクワから空路成田空港へ帰国する。

6) 植物防疫所における収集品の検査は数日を要するため、今回の日本人探索隊は検査終了まで待つことはできない。したがって、バビロフ研が一切を責任を持って検査を担当する。検査を終了した収集品は生物研に別送する。

7) アゼルバイジャンの大使館が日本に設置されていないため、共和国への入国ビザは取得できない。モスクワから空路でアゼルバイジャンのバクー空港に入り、空港の入国管理事務所でビザを申請することとする。

8) 日本側からの経費はドル払いとする。

9) アゼルバイジャンにおける探索用車両の借料は1日あたり約35米ドル（以下、ドル）、ホテル代は約30ドルであろう。日当は20ドル。アレキサンニアン部長が議論で出た共同探索で必要な諸経費を集約して生物研に電子メールで送付することとした。

10) Beta 属野生種植物の探索隊に派遣する2名の日本人研究者のビザ発給に必要な書類を受領した。

7月9日（水）にはセントペテルスブルグの日本領事館を訪問して、工藤領事に面会した。ジーンバンク事業による遺伝資源の海外探索収集について説明し、8月に実施する予定のBeta 属野生種植物の探索収集に理解を求めた。

以上の内容は8月の探索収集派遣者に伝えられ、派遣の準備が開始された。

3. ロシアとの今後の共同探索の実施について

バビロフ研はロシア国内を含めて周辺諸国における植物遺伝資源の探索収集を実施したいが、探索収集の資金がなく、わが国のような資金提供国との共同探索収集の実施を切に望んでいるようであった。ジーンバンク事業におけるロシアでの植物遺伝資源の探索は今回のBeta 属野生植物以外にも牧草や果樹で実施の要望がある。5年間有効なMOAを上手に利用して植物遺伝資源の探索収集を積極的に実施してほしい。

4. 謝辞

今回のロシアにおける植物遺伝資源の探索収集事前調査の実施にあたっては、山田実氏にお世話になった。紙面を借りて厚くお礼申し上げる。